



こうとう 区報

NO. 2016

令和元年(2019年) 8/1
東京2020大会特集号
発行:江東区/編集:広報広聴課
〒135-8383 江東区東陽四丁目11-28
https://www.city.koto.lg.jp
☎3647-9111(代) FAX5634-7538



東京2020大会まであと1年

夢の祭典迫る!

メダリスト特別対談(4面)

シドニーオリンピック 銀・銅メダリスト × ロンドン・リオパラリンピック 銀・銅メダリスト

中村真衣さん × 木村敬一さん

区内で開催される20競技・ 地元から大会を盛り上げる 取り組みを紹介(2・3面)



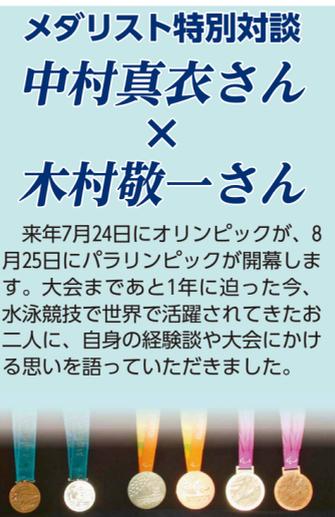
1 Year to Go!

開催まであと1年!



メダリスト特別対談 中村真衣さん × 木村敬一さん

来年7月24日にオリンピックが、8月25日にパラリンピックが開幕します。大会まであと1年に迫った今、水泳競技で世界で活躍されてきたお二人に、自身の経験談や大会にかける思いを語っていただきました。



中村真衣さん

4歳からJSS長岡に通い始め、中学3年生で100m背泳ぎ初優勝、日本代表入りを果たす。高校2年生時には1996年アトランタオリンピックに出場し、同種目4位入賞。中央大学法学部に進学後、3年生時には2000年シドニーオリンピックに出場、同種目で銀メダルを獲得。女子4×100mメドレーリレーでも銅メダルを獲得した。2007年世界選手権を最後に引退。現在は、水泳指導を中心に活動しながら、日本オリンピック委員会のイベントなどに積極的に参加しスポーツの普及振興につとめている。

—さまざまな大会でご活躍されているお二人ですが、まずは水泳競技を始めた時期やきっかけを教えてください。

中村真衣さん(以下、中村) 10歳からです。もともと体を動かすことが好きだったのですが、どうしてもぶつかってケガをすることが多かったんです。そこで母が、プールの中だったら囲われているので安全ではないかと考え、近くのスイミングスクールに申し込んだのが始まりでした。

中村真衣さん(以下、中村) 私は4歳のころに。実は母も国体やインターハイに出るような水泳の選手でした。ただ、選手にさせるつもりはなく、プールや海で一緒に遊べたらいいと思い、私を近くのスイミングスクールに入れたと聞いています。当時の先生が言うには、常に泣いていて、プールに入ると大変だったと。始めた当時は水が好きで女の子ではなかったみたいです。

—それでもその後選手として記録を伸ばす中で楽しくなっていたのですか？

中村 そうですね。小学校5年生くらいまでは楽しくて仕方がなかったですね。水泳仲間が常に合宿とか遠征とか一緒にしていましたし、練習もすごく楽しんでいました。

些細な気持ちが夢や目標に

—お二人とも最初にオリンピック・パラリンピックに出られたのは10代のときですね。

中村 高校3年生のときですが、実はあまり覚えていないんです。ずっと出たいと思い続けていたので、出場できたことに満足してしまっただけでした。他の国際大会では観客や取材も少なく、全然注目もされていなかったんですけど、パラリンピックになったらたくさん注目してもらえましたし、スケールの大きさを感じました。

中村 私も一緒です。夢の舞台に出られるようになったところで満足してしまっただけがありました。当時、選考会のときに日本女子のメンバーが世界ランキング1位という結果を出し、金メダルを獲得すると期待されていたのにメダル数ゼロ。私も最高順位が4位でした。マスコミの方も結果が残せないといなくなってしまうんです。メダルを獲らなきゃ認められないんだというのを感じましたね。

—メダルの話が出ましたが、本日お二人にお持ちいただいています。

中村 メダルがこんなに並ぶのは、あまりないですね。

木村 そうですね。シドニーのメダルと並ぶなんて思わなかったです。

—リオパラリンピックのメダルは振ると音が鳴ると聞きました。

中村 メダルの色で音が違うんですか？

木村 そうですね。今は振りすぎてしまいきれいな音で鳴らなくなってきていますが(笑)。

中村 木村選手のメダルもいろいろな方に触ってもらっていますからね。(水泳教室などで)私も全国を回るときには必ずメダルをこどもたちに触ってもらいます。たぶん触った瞬間にいろいろなことを感じていると思うんです。夢や目標は人が与えるものではなく、良いとかか、カッコいいとか些細な気持ちが大きな目標や夢になります。



▲実際にメダルの音を聞いてみる中村さん

東京2020大会へ向けて

—来年に迫った東京2020大会への思いを聞かせてください。

中村 自分の国で世界一大きいスポーツのイベントがあること、それを現役選手として迎えられることは本当に運がいいと思っています。その瞬間の幸せを噛み締めます。また、金メダルが獲れずここまで来ているので、東京で獲りたいと強く思っています。

中村 選手には想像以上のプレッシャーがかかると思いますが、木村選手はそれをプラスにしているというので、すごい精神力の強さだなと感じます。また、東京2020大会を通過点に、日本のスポーツ環境がより良い方向に変わっていったらいいですね。

—来年に向けて木村選手はアメリカを拠点にトレーニングをされています。

木村 寮に一人で住んでいるので、なにかがあっても自分でしなければいけないですね。言葉も大問題です。

中村 私も水泳で1年留学していたんですが、「1年もいると大分話せるでしょ」といわれるんですけど意外とそうでもないですよ。木村 泳ぎ始めればしゃべらなくていいんですけどね(笑)。
中村 わかります(笑)。でも、あえてその環境に飛び込んでいくというのは素晴らしいですね。日本でやれば、言葉の面では困らないわけですから。

選手が戦う姿を観てほしい

—大会に向け、区民の方にこう関わってほしいということがあれば教えてください。

中村 ボランティアなどおもてなしの面でも関わっていただけたらと思いますが、単純に競技を観に来てくれればうれしいなと思います。

中村 私の地元は新潟県長岡市ですが、江東区は競技会場が10会場もあって、地方からするとうらやましい。いろいろなことができると思いますし、戦う姿を観て、肌で感じてもらえたらいいです。

中村 障害を持っている中でも、これだけ強くなれる・速く泳げるという、人としての可能性に直接触れる機会になると思うんです。それこそがパラリンピックの魅力だと思うんです。あとは、私が所属する東京ガスでも、豊洲で1年前イベントを行います。そこではパラスポーツの体験もできますので、ぜひ足を運んでいただき、どんな人たちがどういう競技をしているのかを体感してから観戦すると、一歩踏み込んだ楽しみ方ができると思います。

中村 0.01秒の戦いなので、選手は命を懸けていると思います。オリンピックの競泳は4×100m男女の混合メドレーリレーなどの種目が増え、見所も増えると思います。競泳チームは強くなっているので、応援していただけたらと思いますね。

—最後に、こどもたちへメッセージを。

中村 スポーツが得意な子は選手の戦う姿を観て、将来そういう世界で戦いたいと思ってもらったり、スポーツに興味があっても、たくさんの海外の方が来ますので、英語を話したいとか、世界で活躍できる仕事をしたとか、いろいろなことを感じさせてくれるオリンピック・パラリンピックだと思います。ぜひ選手の戦う姿を観ていただきたいです。

中村 どの選手もオリンピック・パラリンピックのためにがんばってきています。世界で一番強いアスリートが集まり、競い合う瞬間を目にすることのできる貴重な機会です。ぜひ一度観て、触れて、面白さを感じたと思ったら、その世界にもっと踏み込んでもらいたいと思います。大人になった際にもこれらの経験は役立つことがきっとあるはずですよ。—本日はありがとうございました。

